

令和7年度 次年度に向けた改善方策

世田谷区立駒繫小学校長 佐々木 克二

《学校関係者評価委員会提言》

あいさつは重点目標でもあるので、今後もあいさつの取組を継続してほしい。

【主要取組1】

重点目標に『やさしく』《徳育》を位置付け、気持ちのこもったあいさつがあふれる学校づくりに取り組む。

【数値目標】

学校関係者評価の「すすんであいさつをしている」の児童の肯定的評価を94%以上とする。

『「自分」と「友達」を大切にしている』の児童の肯定的評価を95%以上とする。

【改善方策】

相手の存在を尊いものと認める「心」〈気持ち〉を「形」〈態度・行動〉に表せることができる心豊かな児童の育成をとおして、インクルーシブ教育の充実に努め、人権尊重教育を拡充させる。

『「自分」と「他者(友だち)」を大切にできる』ことができる児童の育成をめざす。

『あいさつ(ことば)』は「心」を「形」として表せる基本となる大切な行動であり、『あいさつ(ことば)』を一つのツールとして、「他者(友だち)」を大切にできる児童を育てていく。

《学校関係者評価委員会提言》

児童・保護者・地域、どの評価者も高い評価である。引き続き安全・安心な学校づくりを目指してほしい。

【主要取組2】

「教職員のいないところには、子供はいない。子供がいるところには、教職員がいる。」を教職員の安全管理基本行動とする。

【数値目標】

学校関係者評価の「安全に気を付けて生活をしている」の児童の肯定的評価を93%以上とする。

【改善方策】

学校内外の教育活動において、『教職員のいないところには、子供はいない。子供のいるところには、教職員がいる。』をスローガンに掲げ、本校教職員の安全管理におけるめざす基本行動とする。

心と身体の安全を担保し、安心な学校づくりに取り組む。

《学校関係者評価委員会提言》

今年度も大きないじめに発展する状況はないとのことなので、引き続き適切な指導をしてほしい。

【主要取組3】

「いじめ0(ゼロ)」をめざして、いじめ未然防止・早期発見・解決に取り組む。

【数値目標】

学校関係者評価の『「いじめをしない、させない、許さない」ができていない』の児童の肯定的評価を93%以上とする。

【改善方策】

年間を通じて、(8月を除く)毎月、「学校生活についてのアンケート」等を実施し、いじめの未然防止・早期発見・解決に取り組む。

学級内での情報は、必ず学年で共有・対応し、さらに、毎月の「いじめ未然防止等委員会」をはじめとして、学校全体での迅速な情報共有と対応・解決に努める。担任一人で抱え込ませない組織的対応をめざす。

《学校関係者評価委員会提言》

学校生活のルールや学習上の決め事に対する規範意識は高い。今後も継続した指導をしてほしい。

【主要取組4】

「こまつなぎスタンダード 2025」を策定し、学習・生活指導の充実に取り組む。

【数値目標】

学校関係者評価の「学校のきまり(スタンダード等)を守って、行動している」の児童の肯定的評価を90%以上とする。

【改善方策】

児童がよりよい学校生活を送るために学習面、生活面でのスタンダードな行動指針を策定する。

目前の子供たちの実態に基づき、全教職員が同一の指導(ベクトル)を実施して、学習・生活指導の充実に努める。また、学年付副担任(専科教員)を設け、学年の全児童の学習及び生活において、指導・支援を拡充させ、学年団力の向上を図る。

《学校関係者評価委員会提言》

今後も災害に対する意識は高まることが予想される。保護者や地域との連携をより密にして災害への備えをしてほしい。

【主要取組5】

緊急時の対応体制の強化を図る。

【数値目標】

学校関係者評価の「本校は、安全な学校づくりに努めている。(安全管理、いじめ未然防止、避難訓練、自然災害対応等)」の保護者の肯定的評価を85%以上とする。

【改善方策】

『天候や地震等、不測の事態での児童の安全確保について』区のガイドライン等に基づき対応する。

さらに、本校独自のガイドライン『南海トラフ地震に関する情報(臨時情報)』が発表された場合の対応について』を設定する。学校緊急連絡情報配信サービス「すぐる」を積極的に活用し、連絡体制の強化を図る。災害時の地域と学校の連携を強化するために、今年度より地域の避難所運営訓練に教員も参加する。

《学校関係者評価委員会提言》

今後も引き続き、タブレットを効果的に活用した、主体的で深い学びの場を設定してほしい。

【主要取組6】

研究主題「授業改善×iPad “教える“から”学びとる“へ」、目指す児童像「自立的に学びとる、クリエイティブな学習者」を設定し、校内研究・研修に取り組む。

【数値目標】

学校関係者評価の『私にとってiPadは学習に欠かせない「学びの相棒」になっている』の児童の肯定的評価を95%以上とする。

【改善方策】

校内研究・研修等に「タブレット端末を有効活用した授業改善」を位置付け、研究・研修を重点的に実施する。
教育課題の解決に取り組む過程で、一人一人の教育の課題解決能力の向上を図る。